

一般演題3-4

高気圧酸素治療における災害訓練を実施して

間中泰弘 天野陽一 藤田智一 吉里俊介
水谷 瞳 山之内康浩

医療法人豊田会 刈谷豊田総合病院 臨床工学科

【はじめに】

当院が位置する愛知県刈谷市は、東海・東南海・南海地震の「地震防災対策強化地域」に指定されており、大規模地震の危険性が非常に高い地域である。

今回発生した東北地方太平洋沖地震から我々は、普段からの災害訓練が非常に重要であることを改めて認識させられた。

そこで起こりうる災害に備えて、シミュレーショントレーニングを実施したので報告する。

【訓練方法】

高気圧酸素治療に従事するスタッフ10名を対象とし、東海・東南海・南海地震の発生とその際に起こりうる停電や火災についてもシミュレーショントレーニングを実施した。

トレーニングの様子を動画撮影し、トレーニング終了後に受講者にフィードバックを行うことで、問題点の洗い出しとそれらに対する改善策を検討した。その際にアンケートも実施した。

【災害訓練風景】

各災害プログラムとトレーニング風景を図1～3に、また患者搬送とフィードバックの風景を図4, 5に示す。



図1. 災害訓練風景
～地震～



図2. 災害訓練風景
～停電～

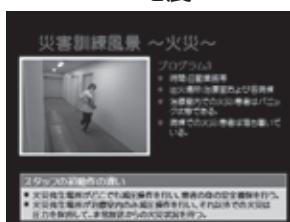


図3. 災害訓練風景
～火災～

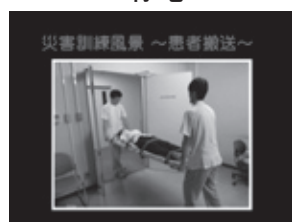


図4. 災害訓練風景
～患者搬送～



図5. 災害訓練風景
～フィードバック～

【結果】

地震の規模や火災発生場所によりスタッフの初動作に違いがみられた。また、勤務時間帯に応じて適切に応援を要請することができないことや、患者の搬送手段がわからないことからトレーニングが中断してしまう場面がみられた。

【アンケート】

アンケート内容と結果を図6に示す。

今回のトレーニングは、全スタッフから満足な結果が得られた。また、消火器や避難経路を認識していないスタッフがみられたことから、災害に対する認識の甘さが見受けられた。

「災害に備えて何が必要か」の問いに関しては、災害時マニュアルや定期訓練という意見がもっとも多く、また「災害発生時に他業務と比較して考えられる違い」に関しては、一人ですべてを判断しなければならないという意見がもっとも多くあった。

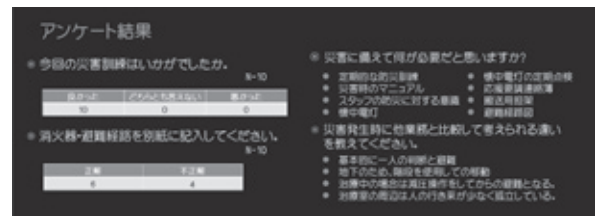


図6. アンケート結果

【改善策】

シミュレーショントレーニングやアンケートの結果から、治療中止のタイミングや避難方法、応援要請体制等の基準を明確にすることが必要だと思われたため、災害対策マニュアルを作成した。

【考察】

災害に対するシミュレーショントレーニングを実施することで、スタッフに災害に対する意識を養わせることができた。また災害対策マニュアルを作成し理解させることで、災害に対する的確な判断と、迅速かつ円滑な行動を身につけることができた。

日常の中で災害に対する経験を培うことはできないため、常日頃から定期訓練を繰り返し実施することで災害時の被害を最小限にすることにつながると考えられた。